



松濤園には4棟の展示館があり、それぞれの建物は日本各地から移築、または復元した日本家屋を活用しています。

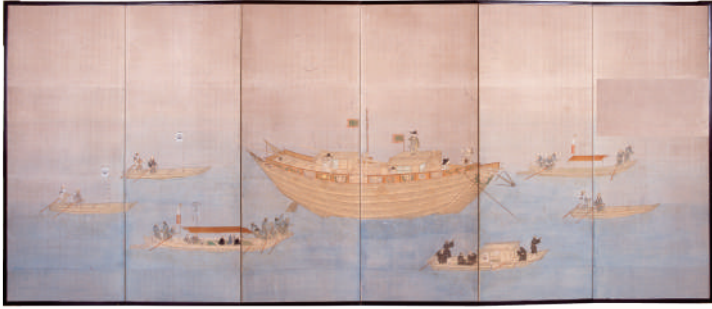
その周りを三之瀬瀬戸を借景とした日本庭園が囲み、散策しながら歴史に触れることができる文化施設です。



Commemorative Museum  
Of Korean Missions

御馳走一番館  
朝鮮通信使資料館

## 朝鮮通信使が やって来た！



「朝鮮通信使船大坂河口之図屏風」  
江戸時代／紙本着色

慶長12年(1607)に初来日した朝鮮通信使。朝鮮半島南の釜山を出発し、瀬戸内海を通り、大坂へと進みました。大坂から京都までは大名が参勤交代の時に使用する、川用の船である川御座船に乗り換え京都まで進みました。京都から江戸までは陸路を行列を組んで歩いて旅をつづけました。江戸時代を通じてこの下蒲刈島には11回立ち寄った歴史があります。

本展では所蔵資料を中心に下蒲刈島に残る史跡や朝鮮通信使の旅の様子をご紹介します。

注目！

## 朝鮮通信使 再現船が 呉にやってくる！



来港日：5/5(月)【祝日】、6(火)【振替休日】 / 場所：大和波止場(呉市宝町 5-5-20)

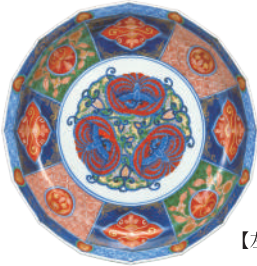
陶磁器館

Ceramics Museum

## 伊万里焼誕生

1610年代に日本初の磁器として肥前・有田の地で誕生した伊万里焼。その後、急速な発展を遂げた伊万里焼は、日本国内のみならず世界中のあこがれとなりました。

伊万里焼が誕生するまでの日本では、長い時代に渡り中国や朝鮮からもたらされる“白いやきもの”である磁器に強いあこがれを持っており、戦国時代に入りようやく志野焼という“白いやきもの”が日本で誕生し、多くの茶人を魅了しました。しかしあくまで土に白い釉薬を掛けて創り出す陶器であり、中国や朝鮮から磁器を取り寄せることは続いていました。伊万里焼の誕生と共に、やきものの流通は大きく変わったのです。



【左】「色絵鳳凰文十六角大皿」元禄様式／1680-1730年代

本展では、伊万里焼誕生とその後の伊万里焼の発展を、初期伊万里の所蔵品を中心にをご紹介します。また、中国、朝鮮の磁器と志野焼もあわせて、白いやきものへのあこがれの歴史もご紹介いたします。



「染付花盆唐草文手付水注」延宝様式／1660-80年代

【画像左上から】

「染付吹墨法螺貝形向付」「染付馬文馬形向付」

「染付魚文魚形向付」

「染付牛文牛形向付」「染付山水文扇形向付」

いずれも古染付／中国・明時代末期



あかりの館

The Lamp Museum

山口県上関町から移築した商家を利用して、世界の灯火器を展示しています。



蒲刈島御番所

The Kamagiri Gurd House

江戸時代、この下蒲刈にあった御番所を上関に現存している建物を参考に復元しています。

### 周辺施設のご案内

蘭島閣美術館

4/23(水) ▶ 7/3(木)

所蔵品展 I

「美の競演

美人画と花鳥画の世界」

蘭島閣美術館別館

4/5(土) ▶ 6/16(月)

所蔵品展 I

「没後50年

林武造形奇譚・後期」

三之瀬御本陣芸術文化館

4/16(水) ▶ 6/2(月)

所蔵品展 I

「林武 - 造形の探究者」

### 交通 Access

広島市内から車で約1時間

呉市内から国道185号線を竹原方面へ。安芸灘大橋(有料)を渡って最初の島が下蒲刈町です。下蒲刈市民センター前の無料駐車場をご利用ください。駐車場から松濤園まで80m。

指定施設にて1,000円以上ご利用の方に安芸灘大橋の帰りの通行券を進呈！詳しくは、呉市観光案内所 TEL.0823-23-7845 まで。

呉から電車とバス

JR 呉線で広駅または仁方駅で下車し、駅前最寄りのバス停留所から瀬戸内産株式会社バス「田戸・大浦・宮農センター・沖友天満宮方面」行きに乗車。下蒲刈町内「三之瀬」停留所下車。停留所から松濤園まで100m。バスに関するお問い合わせ 瀬戸内産株式会社 ☎ 0823-70-7051

